

# 全久院報

松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

## 地震被災からの普及

檀信徒の皆さまには日頃全久院護持のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。また、昨年6月30日の松本地方の地震の被害も、何とか応急処置も終わり、何とか通常の姿を取り戻しました。

現在は耐震化を図るために、信州大学の先生、川上設計事務所、全久院檀家で構造設計をされている西田先生、村山先生により、調査をしていただいています。震度7まで耐えられる本堂を目指しています。そのため総代会に小委員会を設置し全久院としても研究を始めました。

ここ数年、茶室、開山堂、稲荷堂、本堂と瓦の葺き替え工事を進めてきました。今年は仏具などを保管管理する蔵の壁が崩れてしまい、その改修工事をどうしてもしなくてはならなくなりました。このまま放置しますと全面の壁が崩落しかねない状態です。全久院と、護持会の会計より支出して改修をします。



大屋根瓦の葺き替え工事も終わり、一休みしたいところですがもうひと踏ん張りというところ です。瓦葺き替えに伴う寄付のお礼に住職の「南無釈迦牟尼佛」の掛け軸をお配りし始めまして、遠方の方に郵送で送っております。また寄付の会計報告も今取りまとめて、今年中に終らせようと準備しています。つきましては、まだご寄付いただいていない檀信徒の皆様にも再度寄付のお願いをいたします。

・一口 25000円で、1軒につき三口をめどにお願いします。

申込みは 先にお配りした申込み用紙を郵送かファックスで全久院へお送りください。お手元がない方は郵送しますのでお申し出ください。  
送り先住所 〒390-0815 松本市深志3-7-50  
ファックス 0263-34-4300 (電話 0263-36-3211)

・寄付の払込みについて

払込み期間 随時（檀家様のご希望をご相談ください）  
払込み方法 1、全額 一括払い  
2、分割 複数の払込み回数可能（檀家様のご希望、ご相談ください）  
3、払込み 現金書留 か 全久院へ持参  
払込み用紙 ゆうちょ銀行 払込み口座（払込み用紙がお手元がない方はご連絡ください。郵送いたします。）

## お盆参りのお知らせ

お盆のお参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。また、本山修行中の長男、俊浩も棚経に回ります。後のコーナーで紹介しますが現在、侍局奏者（じきょく そうしゃ）という係りを本山で務めています。禅師様の法要を補佐する係りです。修行を終え、松本に帰りたい意向を本山に伝えてはありますが、まだ帰してもらえないようです。お盆には休暇をいただき手伝いに帰ってきます。例年どおりお盆の棚経をお勤めします。

本年は住職と回る軒数が逆転し俊浩の件数が多くなります。このコースを覚えてもらい、1～2年したら回るコースを入れ替えますので、俊浩が全部の檀家様のお宅を覚えることになります。毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。案内の封筒に記入した期日と時間にお参りに行かない場合は電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。従来の周り順と多少変更があります。

8月	住職の回る範囲	俊浩の回る範囲
9日	新盆のお宅	
10日	安曇、明科、麻績など超遠方	
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、笹賀
12日	筑摩、惣社、山辺、横田、岡田、沢村など市外北部	石芝、高宮、南松本、荒井、新村、波田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など市外北部
13日	源地、日ノ出町、梶、清水、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、東中条、豊田町、など市内南部
14日	横田、旭町、浅間、北深志、沢村、田町上土、大手、丸の内、など市内北西部	南新町、井川城、鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、小池町、飯田町、本町
15日	城西、城山、新橋、島内、蛇原、留守だったお宅、	白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16日	留守だったお宅	

## お盆前の作業と懇親会に

本年も、お盆が始まるにあたり、本堂の掃除機かけ、山門の掃除、お墓の掃除や、窓拭きをしていただき、その後懇親会を催したいと思います。毎回参加していただく常連さんでもできました。写真は、お墓のごみを回収し終えた時の様子です。これから山門の掃除に向かいました。女性陣は茶庭や庫裡南側の窓ふきをお願いしました。今年は本堂の掃除機かけもお願いしたいと思います。

**7月21日（土）14時全久院の庭に集合、掃除（お墓の清掃・本堂の掃除機かけ・窓拭き・山門二階の拭き掃除など）**

**17時より夕食を兼ねた懇親会**

作業のできる服装でお越しください。汗をかきなが



らの作業や懇親ですので、堅苦しくないお寺の一面もわかっていただけると幸いです。参加希望の方は食事の都合がありますので、電話にてお申し込みください。

## 盆棚の飾り方

お仏壇は仏様の世界、須弥山（しゅみせん）を表しています。仏教の始まったインドの人々にとっては孤高で白雪を頂くヒマラヤ山脈の峰々は、神聖な場所として信仰の対象となっていました。お釈迦様が説かれた仏さまの住まう須弥山はきっとこのヒマラヤの山々をイメージしたものだったのでしょう。私たちの祖先がお盆の間住まう場所を須弥山に見立てて作られたのが、盆棚です。その飾り方はそれぞれの家によって異なりますので、代々伝わってきた飾り方を大切にしてください。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。

### 1、棚を作る場合

上の段に本尊様、（本尊様は仏壇に入れておき、盆中は閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください）お位牌、塔婆を奉る。2段目に供物をお供えします。お供えは二つあります。水（お茶）、飲食（お膳、果物、菓子、嗜好品）。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。棚の数が多いお宅は右の写真のように各棚に分けてお供えください。



### 2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおり奉る。手前に経机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯籠や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。

### 3、またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げておいてください。

初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。



## 境内散歩 - 勢至菩薩さま -

山門の回廊に午年の守り本尊「勢至菩薩（せいしぼさつ）」をおまつりしております。勢至菩薩は古代インド語ではマハラハタと言われ、世の国の国王大臣のように威勢が自在であることから大勢、大悲自在の位を得るに至るところから、大勢至という名に訳されました。観無量寿経に「智慧の光であまねく一切を照らし、三途（地獄・餓鬼・畜生の3つの悪道）を離れて、無上の力を得、ゆえにこの菩薩を号して大勢至と名づく」とあります。大日経に「被服は螺貝の色で、大悲の蓮華を手にし、円光を放つ」とあるように、螺貝色に輝き、左手に蓮華を持ち、右手は印を結び胸の前にかまえ、蓮華座に座す姿が元になっています。蓮華を持っているので大日如来の実智を持ち、

印を結んでいるので如来になる種子を持っており、一切衆生の心中に現れ、衆生に菩提心の種子を与え、一切の苦悩から済度する菩薩様となっています。ですから、この菩薩様の力は偉大で、菩薩様が現れた世界は振動して菩薩の発する光を浴した衆生はすべての苦しみから救済される。つまり勢至菩薩は仏の智慧を象徴し、智慧の光により人々の無知から救済するのです。

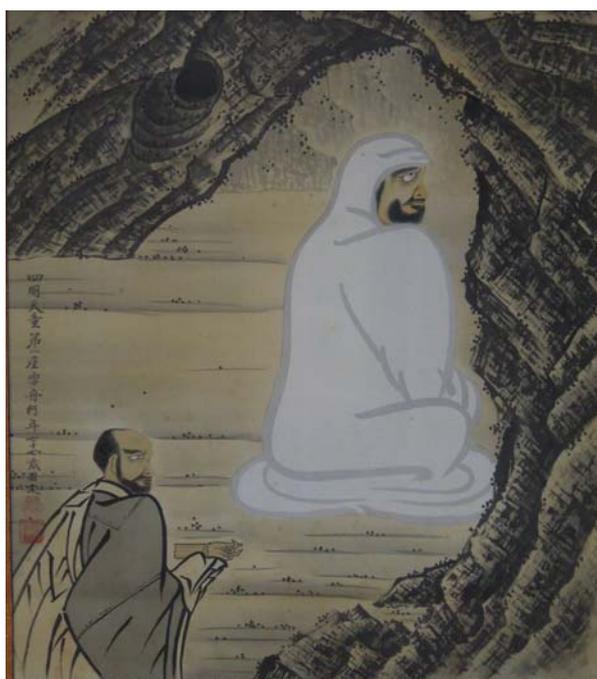
この役目を担って観音菩薩とともに、阿弥陀三尊の一つで、脇侍となっています。阿弥陀仏が人々の臨終の際迎えに来る時、勢至菩薩も一緒に来迎し、極楽浄土にお連れします。観無量寿経に「この菩薩を信仰する者はどんな大罪を犯していても、必ず仏の浄土に生まれることができる」とされています。観音様が慈悲を持って衆生を救うのに対し、勢至菩薩は智慧を持って救済します。

インドでは盛んに信仰されたのですが、一説に釈迦と、その十大弟子の舎利弗、目連の伝説が人々の共感を集めたとされています。異教徒が釈迦の威光を消すための方策として二人を亡き者にしようとした。まず目連の修行中に人々を金でそそのかし石を投げつけさせ、目連を血だらけにして殺害しました。釈迦は「生死は悟ったものにとってたいした問題ではない。目連の死は限りなく美しい」と述べたと言います。智を極め、人々の無知を照らした目連を当時の人は信仰したのです。慈悲の力で人々を照らしたのが舎利弗の観音様、智慧で人々の無知を照らしたのが目連の勢至菩薩様、この脇侍のお二人が阿弥陀様を助け人々を救済したのでしょう。今、日本が一番必要としている仏様が勢至菩薩様、でしょうね。温かさを備えた智慧を身に着けたいものです



## 仏教三知識

### ・ ・ ・ 続、達磨さま ・ ・ ・



雪舟画 慧可断臂の絵

梁の武帝の元を去った達磨さまは魏の国へ入り、洛陽の都にたどり着きました。そこで見出したのが嵩山の少林寺でした。洛陽を一望できる高処の寺は達磨さんにとって絶好の静寂な地で、ひたすら座禅をすることができました。そこで「壁観婆羅門（へきかんばらもん）」と呼ばれるようになりました。

そこに一人の僧侶が現れました。名を神光といいました。あらゆる学問に通じていたのですが、学問を究めても自ら納得がゆかず、迷い苦しむ種になるばかりでした。達磨さまの噂を聞くと、自分の身を捨てても現状の迷いを打開しようと決心し、12月8日雪の降りしきる少林寺にたどり着きました。礼を尽くして来訪の趣旨を告げ教えを請いましたが、達磨さまは一言をも発せず、振り向きもしませんでずるした。「昔の求道の人はその身を忘れて求めた。

自分もその万分の一くらいの事は出来るはずだ。ここ一番覚悟のしどころだ」と自分に言い聞かせ、雪の中をたち続けました。

一夜が明けると膝まで雪に没していました。すると達磨さまは「一体何を求めて雪の中に立ちつくしているのか」と。神光は「大慈悲心をもって仏の教法を受け、私をお救いください」。達磨は「仏道の極意はどんな厳しい修行をしても、何人も達し得られるものではない。それしきの苦勞で極意に達せられると思うか。出直せ！」神光はこれを激励の言葉ととらえ、身を震わせ、目は爛々と輝かせました。ひそかに携帯した刃をふるい、臂を切り落とし、達磨さまの前に差し出しました。達磨さまは「求道の真剣さを見取った」と言うと、厳格な顔が温顔に変わりました。神光は「私はどんなに修行しても安心に達しません。私の心が安心に達せられるよう、お教えてください」。達磨さまは「その安心できないという心をここに出してみなさい。さあここに持って来なさい。お前のために安心させてあげよう。」神光は「私の心を差し出しご覧いただくにも、つかまえることができません」達磨さんは「これでお前の心を安心させることが出来た」。神光ははっとして、大悟したのです。達磨さんは神光を「慧可」と改名させ弟子としました。これが中国で禅宗が広がる第一歩となったのです。

これは520年頃、唐の時代の話です。1500年をさかのぼって達磨さま、慧可様の生死をかけた仏法の伝授の恩恵を私たちは今受けています。私たちは1500年後へ何を送ることが出来るのでしょうか。放射能にまみれたゴミですか？

## 花祭り - 松本仏教和合会 -

私は現在、松本仏

教和合会の総務部長をしています。旧松本市内の様々な宗派、寺院36ヶ寺からなるこの会は、4月1日より土、日を除いた平日の午前中托鉢を行い、月末までに約千軒のお宅に伺い、お参りをして浄財を集めます。福祉施設を訪れ交流会を開いたり寄付をしたりする中で、一番大きな催しとなるのがお釈迦様の誕生を祝う「お花祭り」の行事です。毎年5月第三日曜日に市民芸術館大ホールにて開催されます。その催しの中のいくつかを紹介します。

和合会独自の伝統として、また最もきらびやかな催しは礼讃舞（らいさんまい）です。小学1年から6年生までの20人ほどの女子が、花祭り前1週間特訓を受けます。昔からの稚児衣装を身にまとい、花束や太鼓や鉢（シンバルン）を持ったり打ち鳴らしたりしながら舞います。最上級生は華皿を掲げ、散華（花をまき散らす）をします。一番晴れやかな役ですので、下級生は6年間続けて参加し華皿の役を目指します。私の娘たちも華皿までたどり着きました、



次は仏教系の3つの幼稚園や保育園の子どもを中心に子ども大会が行われます。その中の呼び物の一つが若手僧侶による創作劇です。今年は「西遊記」が行われました。シナリオ、大道具、衣装、音入れまで全て自前で行います。多芸なお坊さんの集まりですね。ストーリーは天竺に向かう三蔵法師一行に、龍魔王が畏を仕

掛け襲いかかります。孫悟空や八戒達の勝手な行いを戒め、助け合い、子どもたちの声援を受けて、龍魔王を改心させるという勧善懲悪の、子どもたちにわかりやすいストーリーです。その中に現代のヒーローも登場します。私は「筋肉マン」や「バイキンマン」という笑いをとる役をやっていました。

また、甘茶を誕生仏にかけたのを思い出される方もいらっしゃるかと思います。お釈迦様が誕生された時、空から「甘露の法雨」が降ってきたことにちなんで甘茶をかけるのです。「小さい頃からずっと毎年甘茶をかけに来ていますよ」と語られるおばあちゃんたちが沢山います。

昔と同じことをするという事は決してマンネリではなく、人に穏やかな安らぎを伝えて行けると思えます。手作りは温かな心を伝えることができます。そんな花祭りを次世代に送ってゆきたいと思っています。



## 茶道コーナー

### ・・・利休の名の由来・・・

何回か利休さんの名前を紹介したことがありますが、やはりはっきりした記録が残っておらず、由来を断定することが出来ないようです。が、あえて挑戦してみようと思います。

利休居士号は天正13年（1585年）勅賜されています。秀吉が関白に任ぜられたのを記念して禁中茶会を主催しました。秀吉自ら天皇や皇族たちに茶を点て献じたのです。その際茶頭として公家衆に茶を供しました。天皇のそば近くで茶事を奉仕するための条件として、出世間の身分にすることが求められていたので、秀吉を通じ（はっきりしない）居士号が勅賜されたのです。が、どうも茶会当日の「1日だけの仮の名」であつたらしいのです。しかし親交の深かった堺の南宗寺の住職と首座の働きによって実名となりました。ここでも、「しかし」が入ります、いくつかの文献を探ると、居士号はそれ以前に使われていた形跡も残っているようです。ここではその詳細は省きます。このように身分の上の者に対して居士号は使用されたので、ふだんは抛筈斎（ほうせんさい）という斎号を1585年ころまで使っていました。筈（むかご）は魚を捕らえる漁具のことで、抛筈とは手段や方便を捨てて何物にもとらわれない自由の境地に遊ぶという意味になります。私の経験でも、無心になりけりせず作為を働かせると、嫌味な下品な点前になります。

居士号を誰が考えた者も諸説があります。一つは、大徳寺90世大林和尚は次に紹介する春屋和尚の師匠で武野紹鷗（たけのじょうおう、利休の茶道の師匠）に一閑居士号を与えたといわれている。二つは、大徳寺111世春屋和尚は利休の大徳寺での参禅の師匠であった。三つは、大徳寺117世古溪和尚は利休と親交が深く、自害の理由ともされた大徳寺の山門の改修を共にした和尚です。誰が名付けたにせよ、利休は中国蜀時代の禅僧「幹利休」にちなむとの説があります。

また、その意味は三つ考えられます。一つ、利は「ご利益」を意味し、自分だけがご利益に与りたい、自分だけが儲ければよいという心を休ませろ！二つ、利は「名利」を意味し、自分だけが



長谷川等伯 画 利休像

認められ、自分だけの名が知られ、名を馳せたいという心を休ませろ！3つ、利は「利発、鋭利」を意味し、自分の頭だけで考え構築してゆく勝手な思いや考えを休ませろ！つまり、禪の修行の行きつくところを居士号としていただいています。秀吉が政治の頂点にのし上がるための必須条件が「利休」に反しています。だからお互いに引き合い、そして反発しあったのです。利休と秀吉の確執は利休の居士号のなかに潜んでいたと思います。

### 葬儀や法事に全久院をご利用ください！

最近葬儀の形態が急変しています。数年前は身内・親戚・隣組・会社や交友関係の人が葬儀を手伝い、またお参りに来るといのように、皆で個人を送る葬儀でした。しかし、最近では家族や、ごく身近な親戚のみのご葬儀が多くなっています。みなさん大変長生きされ、兄弟姉妹や親戚、友達や仕事仲間も亡くなったり高齢になって出席できないというような理由があります。以前のようにいわずらに多くの人に呼び掛け、動員をかけるような人呼びは必要ないかと思えます。しかし、家族以外に知らせなかったため、後から知った方々が、葬儀後ひっきりなしにお参りに訪れるという、予想外の状況が生まれています。「お参りに来る方々の接待で休まることがなく疲れ果ててしまった」などこぼされた方もいました。

ですから、どんな形で葬儀や法事をするか、行き当たりばったりでなく、健康なうちからしっかり考えておく必要がありますね。法事の時お唱えいただいている「修証義」に「生を明らめ死を明むるは仏家一大事の因縁なり」とありますが、現在ほど自分がどう生き、どう死を迎えるか、はっきりと自分の考えを持つことが求められています。

何度もこの紙面にて報告していますが、ホールを使った葬儀や法事は、最新の設備を備え便利で快適ですが、その分費用はビックリするほどです。

葬儀費用を比較してみますと 100人のお参りの人がくる葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、業者では、100人×25000円＝250万円。寺を使えば100人×10000円＝100万円。差し引き150万円の差が出ます。

「寺を使うと人手がかかり大変ではないのですか？」と聞かれるのですが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部（電話32-8700）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）へ電話するだけです。後の手続きはみな業者がやってくれます。

「積立金があります」と言われますが、それが30万円としても、120万円浮いてきますし、その積立金を法事などで使うこともできます。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れてしまいます。戒律を授かり、菩提寺の住職に戒名を付けていただき、心一つになった方々に送られて仏様になる、という葬儀の意味はやはり自宅や寺という場所でなければなりません。様々な事情で仕方がない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っただけでいいと思えます。イスに坐っていただけるよう、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非一考ください。いざという時では業者の言うなりになってしまいます。自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。葬儀の後請求書を見て子孫をビックリさせるようなことだけはしないでいただきたいと思えます。

### 住職の活動

東日本大震災



私が以前から関わっていたSVA（シャンティ国際ボランティア会）は今回の東日本大震災の救援にも、いち早く参加しました。その経過をお伝えし、被災された方々の一面を知っていただき、いま何が必要とされているかお話ししたいと思います。

SVAは救援活動を開始し1年3カ月が過ぎました。これからどんな救援をすべきか、今までの活動を評価するために、現地視察に参加しました。6月13日と14日、岩手県大槌町と陸前高田市を視察しました。

SVAは遠野市に事務所を置き、大槌町と陸前高田市に常設図書館を置き、それを基地にして大船渡市や山田町など4市町30の仮設団地に移動図書館を運営しています。左上の写真は遠野市の事務所です。

まず現状ですが、被災地のがれき等はほとんど片付けられ、撤去に多くの費用がかかる大きなビルがわずかに残されているだけになっています。沿岸部はまだ復興計画の指針が出来ていないために手つかずの状態です。ところどころにプレハブが建てられ、コンビニや商店が入っていました。目につくのは建築機械のレンタル会社、木材や建築資材の商店、中古車店です。



テントで営業する「復興食堂」などもわずかですが営業していました。しかし店はまだ限られており、私たちの食事はコンビニやスーパーのお弁当です。



私たちは海外でも図書館やコミュニティーセンターを作りながら、地域興しや教育の復興を事業の中心に置いていますので、こちらでも同じ趣旨での事業を組み立てています。被災した大槌町立図書館です。完全に津波で破壊され、なかの備品はどこかに流されてしまっていました。ここには建物を作れないので解体されるのを待っている状態です。外観はかろうじて図書館として残っていましたが、内部は悲惨です。机も機材も何もかも流されてしまいました。どこからか拾い集められた本

が山積みになっていました。水にぬれたまま放置されたんでしょうが、いまだに塩水でべとべとしており、腐る寸前でした。

図書館が今必要ですか？と疑問に思われる方もおられると思います。現在行政は復興計画を練っている最中で、建物を作ったり、工場や学校を再建したりすることはできません。そこで被災者は現在ある施設を使って、経済の復旧や、地域社会の復興や、生活の立て直しをしなければなりません。つまり、今できることは地域の繋がりや、人と人との絆を取り戻し、来るべきダイナミックな復興の進展



に備える時期と考えられます。

しかし働ける人は昼間仮設住宅から出て仕事場に向かい、子どもたちは学校、取り残されている高齢者や職を探している人は行き場がありません。その場を提供するのが、図書館やコミュニティーセンターや移動図書館です。SVAの移動図書館は2000冊の本、みんなが集まれるテントと机やイス、コーヒーなどの飲み物を積んで、30の仮設住宅を2週間に1度巡回します。実用書で技術を知ってもらい、文学書で心の安らぎを取り戻してもらい、新聞やミニコミ誌や雑誌で生活に役立つ情報を得てもらう役割を果たしています。図書館員はその間、読みたい書籍のニーズを調べたり、現状を聞き、困っている問題を集め、その対応を行政などに訴えてゆきます。いろいろな意味で心の支えとなっています。



行政も生活基盤や産業の復興や、行政機関の復旧のほかに図書館などの人々の心を支えるための事業を計画し始めています。左の写真は陸前高田市の仮設図書館です。プレハブ作りで十分な図書館機能を果たせる状態ではありませんが、まずは開館して一歩歩みを進めようと準備を開始しました。今は蔵書を購入し、本を分類してラベルを付け貸出業務が出来るように作業をしていました。

図書館員の方が話してくれました。私たちの図書館はみんながふっと集まり、ほっとした時間を過ごす心のよりどころを目指しています。先が読めない被災された方々に先を見極めてゆく厳しい時に備えるエネルギーを蓄積する場になっています。

車を走らせて行くと、海岸より少し高台になる道のあちらこちらに仮設住宅が建設されていました。戸数はまちまちで、10数軒の固まった住宅や、200軒を超える大きな団地まで様々です。それぞれの仮設団地にはそれぞれの条件があり、同じようなサービスがで



きません。また同一の地域に住んでいた方たちもばらばらな仮設団地に住居を構えなければなりません。それぞれの条件に身軽に対応できる移動図書館のフットワークの軽さは、被災した方々から高評価を受けています。それだけに責任の重い仕事をしていると、身を引き締めて皆さんの要望にこたえてゆこうとしています。時間や仕事に追われ自分の限界を超えて働いている皆さんを何とか支えてゆきたいと思っています。

15日帰途につきましたが、長年SVAと一緒に常務理事を務めている早坂文明師の寺をたずねました。早坂師は宮城県と福島県の県境の町の徳本寺の住職です。海岸から3キロ離れた寺は倒壊を免れましたが、寺の壁などいたるところに亀裂が入っていました。ここで被災物故者の慰霊法要を行いました。位牌堂にはご覧のように多くの骨箱が安置されていました。お墓が津波で流されて納骨できない方。身元が分からない方。家族もみな亡くなり引き取れなくなってしまった遺骨など事情は様々です。

さらに早坂師は住職するお寺がありました。徳仙寺です。海岸から300mの所にありました。3月11日はちょうど総代会を開いていたそうです。大地震に続いて、津波警報が鳴り響いたそうです。津波が来るまでまだ余裕がありそうと、私財を取りに帰った多くの総代さんは帰らぬ人になったそうです。また、檀家の



の9割の家が流されたそうです。右の写真は本堂跡です。津波で全てが流されてしまいました。下の写真は改装落慶をした時、私の妻が呼ばれてお祝いの歌を歌った時に撮った写真です。まさに跡形もないとはこのことです。寺の基礎石は全て流されてしまったとのことで、本堂のあった場所に石を探し出して積み上げた前で写真を撮りました。その奥にお墓が見えてますが、やはり



全て流されてバラバラになってしまったのを、集めて何とか元に戻したそうです。石塔はかけたり、傷だらけになっていました。それでも家族を収めることが出来、崩れそうになった心を取り戻し、奮い立ててくれるそうです。私たちのお参りするお墓となにか違う働きをしています。いや本来のお墓の働きをしているのかもしれませんが。救援に出かけていつも感じるのですが、本当に大切なことを示し教えてくれるのは、被災地であり、被災した

人々です。これからも何回か被災地に行きますので、報告したいと思います。募金などをおしてぜひSVAの図書館にご支援ください。また早坂師は写経によって徳仙寺を復興しようとしています。寄付は家を流されてしまった檀家さんにはお願いできません。ご協力いただける方は写経の発願書を送りますのでご連絡ください。数千円で協力できる写経計画です。1番目の協力者は永六輔さんだそうです。

## 俊浩 修行奮闘記

俊浩の修行は6年目に入りました。現在、禅師さまのお世話をす侍局（じきょく）に配属され、禅師さまの本堂での法要の折りの侍香（香を持って、補佐をする）の役、奏者（そうしゃ）として勤めています。本堂で法要するにあたり必要な役を務めて来て、全ての動きに対応できるまでに修行を積んできたので、この役を務めることが出来ます。現在は10畳ほどの一人部屋をいただいています。ここ3年法要のお

経を先導する堂行寮（どうあんりょう）におり、堂行長（どうあんちょう）を務めるなど、厳しく責任の重い役を務めあげ、一息ついた状態だとのこと。

彼が修行に入った年に一緒に修行を始めた同僚を、同安吾（どうあんご）と言いますが、70人の内5人が6年目まで残っているそうです。法要に際し重要な役割を担う係り2人と、事務系で重要な部署を担当する2人と、それから俊浩とのこと。7月にはまた配役が変わるのですが、この次の役に就くのか、修行を終えて全久院に帰ることが出来るのかが決まるそうです。そろそろ修行の後をどうするか決める時期に入ってきました。

## 大黒コーナー … オペラ ドン=ジョバンニ …

5月5日、長野市のホクト文化ホール（以前の県民文化

会館）にてモーツァルト作曲、「ドン・ジョバンニ」に出演しました。このオペラの中心的な役割を担うのが、酒と女をこよなく愛するドン・ジョバンニ。娘ドンナ・アンナを誘惑されそうになり決闘し殺される騎士長。父を殺したとも知らず婚約者ドン・オッタービオではなくドン・ジョバンニに恋焦がれるドンナ・アンナ。女たらしと知りながらドン・ジョバンニを愛し憎むドンナ・エルヴィラ。ドン・ジョバンニの悪だくみの手伝いをさせられる従者レポレロ。結婚式の日誘惑されるツエルリーナとその夫、純朴な農夫マゼット。彼らを中心に複雑に愛が絡み合い、最後には石像に身を変えた騎士長に地獄に落とされるドン・ジョバンニというストーリーに、音楽史上最高峰といわれる、アリアや重唱曲が次々と奏でられる。モーツァルトの3大オペラの一つで、ドンナ・エルヴィラ役を今回務めました。



主催は長野県内で活躍する音楽家で作る「土の会」で30周年を祝う記念公演でした。長野楽友協会のオーケストラの伴奏がつき、長野オペラシンガーズの合唱がつき、総出演者が100人ほどになる大舞台でした。松本でもチケットを買っていただき、沢山の方に応援していただきました。

1年間、週末ごとに長野に練習に通い、イタリア語の原曲での公演となりました。大道具や衣装なども素晴らしく、まさに音楽の総合芸術といわれるにふさわしいオペラ公演でした。写真の深緑色のドレスを身にまとっているのがドンナ・エルヴィラで、成熟した女の情念を歌いあげてゆく役柄です。



音質、声量、音程、表現など技術的な課題が十分訓練され尽くした上で、情念を盛り込み、観客を巻き込み魅了する歌唱力と人柄が試される役柄、十分果たせたでしょうか。

来年は松本オペラを楽しむ会主催のオペラ「ヴォエーム」公演を行います。ぜひ皆さんも聞きにきてください。

## **掲示板**

(皆様のご参加お待ちしております)

### **～施食会～**

8月5日(日) 12時より自家製によるお弁当、12時半より観音講や合唱部の皆さんと一緒に懐かしい唱歌の合唱、13時よりお話、14時より法要(ご詠歌の会の皆様による奉詠)、15時よりお塔婆を配ります。今年も皆さんにお参りいただけるような内容をと考えています。ぜひご参加ください。

### **・・・ 檀信徒作業と懇親会 ・・・**

例年通り 7月21日(土) 14時より全久院で開催します。2時より本堂とお墓の清掃、窓拭き、山門の掃除をしていただきます。5時より懇親会となります。屋外でのバーベキューと冷たい生ビールという趣向です。皆様の参加お待ちしております。参加希望の方は電話でご連絡ください。

### **・・・ 座禅会 ・・・**

9月1日(土)・9月15日(土)・10月20日(土)・11月17日(土)・12月15日(土)  
お粥と精進料理。以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。12月15日はお粥と精進料理を経験していただきます。座禅を経験していただくだけでなく、ものの見方や生き方を豊かにすることができると思います。ぜひご参加ください。

### **・・・ ご詠歌会 ・・・**

9月11日(木)・10月11日(木)・11月8日(木)・12月13日(木)

午前10時より11時半まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。

### **・・・ 観音講 ・・・**

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気よりが良く60代から90代の方が元気に集まってきました。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

## **お知らせ**

### **・・・ ホームページを開設しました ・・・**

<http://zenkyuin.or.jp/>

全久院の催しに参加する若い方から、「全久院報を配っているようだけど、すぐ仏壇に上げられてしまうようで見たことがない。若い人にはコンピュータのほうが身近だからホームページにしてくれないか」との要望がありました。全久院報も全久院を知っていただけるようさまざまなコーナーを作ったので、それをそのままホームページようにすることが出来るとのことで、コンピュータ管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんに依頼して解説していただきました。将来は皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思えます。ぜひ一度開いて見てください。